

兵装及改装

0959

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

號一第紙單案起

大正元年八月三日起案

(提案) 艦政本部長

大臣

次官

副官

參事官

第一部

會計課

軍務局長

局員

經理局長

主任局員

大正元年八月十四日
舞工第... 號... 一三三上申軍艦處島

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

砲煩

0960

十二吋砲尾栓開閉装置改造ノ件
認許ス

但シ所要豫算金四千四百九十四圓

軍事情造兵員支弁トシ別添配

賦ス又工事方案ニ附シテ艦政本部長

シテ直接ニ廠長ニ通牒セシム

終

0961

海軍艦政本部 第一圖
No. 4192
大正九年八月

艦政本部

七
七

海軍大臣男爵齋藤實殿

明治三十四年七月十九日

舞鶴海軍工廠長 齋藤 實

軍艦赤島上可砲尾檢開閉裝置改造件
 軍艦赤島四十五口至十五口砲尾檢開閉裝置改造件
 發射ノ際灼熱ヲ生シ易ク不工合ニ存軍艦河内上可砲尾檢開
 閉裝置之効ニ關シ通リ討議致候條被送方御認許可成
 三
 別番或葉別紙添添
 (収)

官房第一七〇號

元八八〇

司令長官
 舞鶴
 五
 一三二

參謀長
 副官
 原

舞鶴海軍工廠長 齋藤 實

舞鶴海軍工廠

0962

7.29

一、軍艦尾島十二号砲尾檢用用表置改定工事方案
俯仰軌ノ中心距離ヲ在来ノモノニ比シ二百七拾九
シ鎖走錐筒全長機盤下部ニ附着セリ

二、水壓原動機ハ百三拾九前方ニ移動セリ

三、砲ニ仰角ヲ共ニ片側開出輪籠ノ側ニ備ルル部分
ヲ中百五十五托長サ六百六拾九切リ取ルコト

四、砲ニ最大仰角ヲ共ニ片側鎖走錐筒全長ハ俯仰下部
底板ニ備ルルモノノ全長ニ於テ巾百五拾九長サ百九拾九

切開セリ

五、尾檢用用用水壓用用機取付位置ハ尾檢用用表置

取付位置ノ變更ノ對シ右砲用左砲用トテ相入換使用

セリ

六、水壓式動力機軸ハ草履河内令様一直線ニ傾斜セ

シムル片ハ令機於テモ改造ヲ要スベキ所アルニ依リ
扇島在来ノ通リヨリニバーニス、レモントヲ使用セリ

七、表機位置ノ指示板ハ例板一新切開ノ爲メ後方ハ
約四百六十セル移動セリ

又資材算 (一四門分)

工費 七千八百八拾圓

材料費 七千九百六拾圓

附屬費 五百九拾九圓〇四錢

合計 四千四百九拾九圓〇四錢

一、竣工日数

九拾日間

0964

第三號

起案第一號

大正元年九月三日起案

提審

艦政本部長

大臣

海軍大臣

次官

參事官

別官

會計課

第三部

第一部

經理局長

勝

主任局員

泉

服部

軍務局長

馬場

馬場

馬場

馬場

馬場

九月十八日
官房接取

會

9-16

0965

軍務局接受

大正元年九月二十日
佐廠業五號二三上申軍艦製

手出雲三時宛改装ノ件認許ス
 是レ造兵ノ部ニ要スル費用金卷
 百四拾員内一軍事員造兵員卷
 支井トシ請未ヲ待テ部員又工
 事方ノ案ニ関スル艦政本部長
 ニ直接工廠長ニ通知セシム

終

0966

八月十七日

大正九年八月十三日

佐世保海軍工廠 第二三

佐世保海軍工廠長加藤定吉

海軍大臣岡田啓介

軍艦整手出賃三付改修方別紙付し海清
求有し調査手付三十四九十番宛り因黄錫

艦政本部

右申入 第一節

官房第二四二號

船政三部保管

元九

海軍艦政本部 第一圖 No. 4387 年10月

0967

友黄通清

任世保
印

八

8.15

0967

圖面一揃(三葉)
是工版、送附ス
淺岡改造参考ノ為メ

一部

0968

軍務部女子兵隊の三所を擴張せしめ

二軍方筆入書院兼女子美術講習

一二軍方筆入

別表書白一冊

二書院兼筆

筆書白一冊

由 二書院兼筆白一冊

抄書院兼筆白一冊

由 抄書院兼筆白一冊

二軍方筆入

白一冊

由 抄書院兼筆

二冊

0969

右

洋

司

0970

軍艦出雲、舷手砲改装工事方案

入費概算等調書

(造船部)

工事方案

別圖ニ示ス如ク前後兩艦橋參吋砲四門ヲ各
其直下ノ艦橋甲板ニ移ス現位置ノ下ニアル
支柱ヲ撤去シ厠排氣用「マツシルム」ヲ移
動ス各砲新位置ノ直下ニ補強圖ニ示ス如
キニ重張板、梁、支柱等ヲ新設ス

入費概算

(一隻ニ付)

合計金四〇六、〇〇〇

内譯

工費 七、〇〇〇
材料費 貳五、〇〇〇
附屬費 五六、〇〇〇

0971

工事日數

着手ヨリ十日間

重量増減

別表ノ通り

右

終

0972

警部第四七九號

明治四十四年十月三日 於東京

警部長橋本又吉郎

佐世信田軍工廠長里井博次郎殿

兵装位置変更請求事件

一前後艦橋備附三吋砲

四門

本艦橋上之連蒸物より艦橋橋上三吋
 砲架砲口ハ指吳燈より後方に又、燈台ノ先首より後方
 あり兼、砲台ノ位置亦、如くハ前艦橋よりハ
 艦橋上位置、後艦橋よりハ三吋砲架後方、移し指吳燈
 かりギン艦橋上三吋砲架後方電信引込筒ノ為、船
 ヲラレ指吳燈先分よりハ、且、後方位置、置クト、是等事
 諸子數指ハ先ノ可トラス(現、夜間教練時、艦橋橋

0973

〇〇〇〇例アリ。若シ中東東山アスル水官官署ニ階ハ
 平西硝子及射銃等ハ遠ニ置置用クナリトシ且テ卷
 銃ノ如ク指銃ヲ引入レ使使スル時ハ距離上ニキレト指
 銃燈ト余ク接近ナレ若シハ同銃ハ指銃燈ト先ニ妨
 ケラレ目標ノ確認スル能ハス故ニ夜間射撃中ニ階
 レテハ不得已前銃燈上ニ各一巻ク位置変更レ
 其後指銃ト妨害トシ避ケテリ。現狀ニテハ指銃燈ノ
 威カヲ達シテセルハ其四門ノ此火ヲ亮キタルハ然
 ルニ距離上ノ此ノ実直下著上ノ取回示ノ位置ヲ移ス事
 トセル。故令カ射撃ハ概々スルニ之ガ面立スルヲ得ルコト認ム
 右ノ理由ニ依リ射撃トシテ凡クセシカトテツクシハ位置更
 更ノ件請来ス

(24)

寫

出雲守三三郎白

明治甲午年七月廿六日

出雲守長代理

海軍少佐 森利吉

作世任海軍工廠長加藤定吉殿

禮橋三吋砲裝備換請求、件

一、三、四、九、十番三吋砲、各砲直下、禮橋甲板、裝備換入

理由、從來ノ位置ニ有リテハ射撃、陸揚、且増、反射

銃ヲ毀損シ水雷防禦、定地、適、ス

右請求ス

(丸)

平川

0975

號一第紙界案起

庚子年九月三日

起案

の

第一

第三

九

提

繼政本部長

大臣

次官

參事官

副官

會計課

第一部

第三部

軍務局長

局長

田

經理局長

主任

局員

泉

服

大三元報指今案
橫敵第...
九月二十日
大軍
九

六寸砲揚弾機装填台改造ノ件

是ヲ新要豫算金六百九拾五円四

拾銭ハ軍事費、造兵費、支弁トシ

請求ヲ待テ配賦ス又工事ヲ案ニ刻シ

艦政本部長ヲシテ直接ニ廠長ニ通知

セシム

0977

八月廿七日

艦政本部

第一部
第三部
會計課

右申す

大山元言八月九日

海軍大臣岡田啓介閣下
大口径揚弾機装填台改造、并
軍艦汽波解長ヲ別紙寫之通テ改造請求ニ依
テ請願書現呈、装置ニ往々不具合ヲ来スル虞有之
事請願書別紙ニ詳述、改造ノ必要ト認メ別紙工率ヲ添
書概算工率日表添付

積込第 四

加藤

加藤

加藤

參謀長

加藤

參謀

加藤

加藤

加藤

加藤

加藤

大正五年八月廿三日

18.28

續發受大正元年八月廿二日

官房第 三三三

(別紙或葉同前等七三七等ノ以葉添付)

三和國無管

加藤

元九二の抄

艦政本部
第一圖
No. 4586-1
1年10月

(統)

0978



筑波第一二六号

明治四十五年六月廿五日

稿本筑波艦長

坂本橋頭賀海軍工廠長殿

兵器改造請求

一四十五口径四寸六分口径砲揚彈機

四ヶ所

該兵器供用中永年使用、結果彈藥通路ヨリ、

装填名ト諸機銃並輪其他ニ於テ不具合ヲ生シ

間々装填ニ遲滞ヲ来ス等アリ故ニ此際生駒、

如ク改造相成度

右請求ス

(終)

軍艦筑波六寸砲揚彈機裝填台

改造工事方按

現在其彈藥裝填筒及接流連輪裝置ヲ全部取
除キ新ニ揚彈筒兩側ニ滑動板及前方ニ彈藥裝填
台ヲ別開シ通リ新設ス

改造豫算

一 金六百九拾五圓四拾錢

内

工 費 金 六百九拾四圓

材料費 金 九拾六圓

附屬費 金 八拾五圓四拾錢

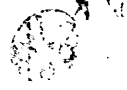
工事日数 六十日間

右

0930

大正元年八月十四日

横濱海軍工廠造兵部長大館源太郎



横濱海軍工廠

0981

第三部

起案紙第一號

明治五年五月十六日起案

機案

大臣

陸

次官

參事官

副

總政本部長

五月十八日發付

發付後起

發付後起

發付後起

發付後起

第一部

第三部

會計部

砲水

電

軍務局長

局員

局長

經理局長

主任局員

局長

指令之按

明治四年五月

大臣

佐鎮 葛三 九 上申 七 八 五 噸 砲

香房

三

海軍

0982

艦兵装之件認許ス

但之レガ一部改造ヲ要スルモノハ別ニ

海軍艦政本部長ヲシテ其地工廠

長ニ直接通牒セシム又兵装費全庫券

以千六百八拾七圓六錢八厘艦装造費造兵費

支辨トシ別途配付ス

(終)

0983

艦政本部

第一部

第三部

會計課

佐領第三九九號

明治四十五年五月十一日

佐世保鎮守府司令長官 島村速雄

海軍大臣 男爵 齋藤 實殿

七五噸砲艦兵裝不備

七五噸砲艦兵裝豫定並兵裝圖而別狀函調

製本セリシハ系御視許並改交兵器造修試驗検査

想見亦二条ニ依リ

右申上

書類並三向向月録一通
用面
持一
添

（終）

凡五、六、八、拾、金、赤、布

官房第一六一九號

重
録
印

海軍大臣

島村速雄

五月十日

45.5.14

0984

七、五幡砲艦書類善、圖面目錄

佐世保海軍工廠

海軍

0985

後 後 後 後 後 後 後

四〇四

✓ ✓ ✓ ✓ ✓ ✓

目 録

一六八 砲兵隊長傳算手調書

伝 道

一五 砲煩格付調書

抄 故

一五 一主砲電敵隊部隊調書

抄 故

一五 二主砲電敵隊部隊調書

抄 故

一五 三主砲電敵隊部隊調書

抄 故

一五 四主砲電敵隊部隊調書

抄 故

一五 五主砲電敵隊部隊調書

抄 故

一五 六主砲電敵隊部隊調書

抄 故

一五 七主砲電敵隊部隊調書

抄 故

砲 煩 格 付 調 書

砲 兵 隊 長 傳 算 手 調 書

海 軍

七八五噸砲艦兵裝豫算書

海軍工廠

海軍

0987

七ノ五項砲續兵装發算調書

一 金度可計千六百ノ拾七円ノ銀

由

ノ 勞ノ銀千四百可計拾五円

材料費ノ銀六百七十百参円

附屬費ノ銀五百五拾八円六錢

由譯

砲續ノ部

一 長邊切四寸徑四寸七炮外砲砲文重共

拾廿

参門

金百八拾八円

工費ノ銀百拾参円
材料費ノ銀七拾五円

一 四寸口徑三寸砲

参門

金百拾拾五円

工費ノ銀百参拾五円
材料費ノ銀七拾五円

一、スチール板砲

金七拾五円

工費金拾九円
材料金拾五円

参門

一、四寸七厘入り力揚洋銃

金拾参円

工費金拾参円
材料金拾参円

信領

一、四寸七厘入り力揚洋銃

金七拾五円

工費金拾五円
材料金拾五円

信領

一、三寸七厘入り力揚洋銃

金七拾五円

工費金拾五円
材料金拾五円

信領

外、二寸試券射費用

金拾五円

工費金拾五円
材料金拾五円

計、金百四拾七円

計、金百九拾五拾八銭

合計、金七百参拾七円五拾八銭

0989

電氣部

一 配電盤製作機材電器敷設

定金

金九百五拾五円

上巻 五百六十圓
計 四百九十圓

一 昇電機 機材等

二葉

金千七百拾七円

上巻 五百六十圓
計 四百九十圓

一 探照燈機材及電器敷設

定金

金五百八拾五円

上巻 四百九十圓
計 四百九十圓

一 白熱電燈機材等、計電器敷設

定金

金四百九十拾五円

上巻 四百九十圓
計 四百九十圓

一 電線敷設機材等及電器敷設

定金

金四百拾五円

上巻 四百九十圓
計 四百九十圓

一 電線敷設機材等

定金

金四百拾五円

上巻 四百九十圓
計 四百九十圓

| | |
|-------------------------------------|---|
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |
| <p>一 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> | <p>昭和九年九月 二 國書總目録の改訂 昭和九年九月</p> |

